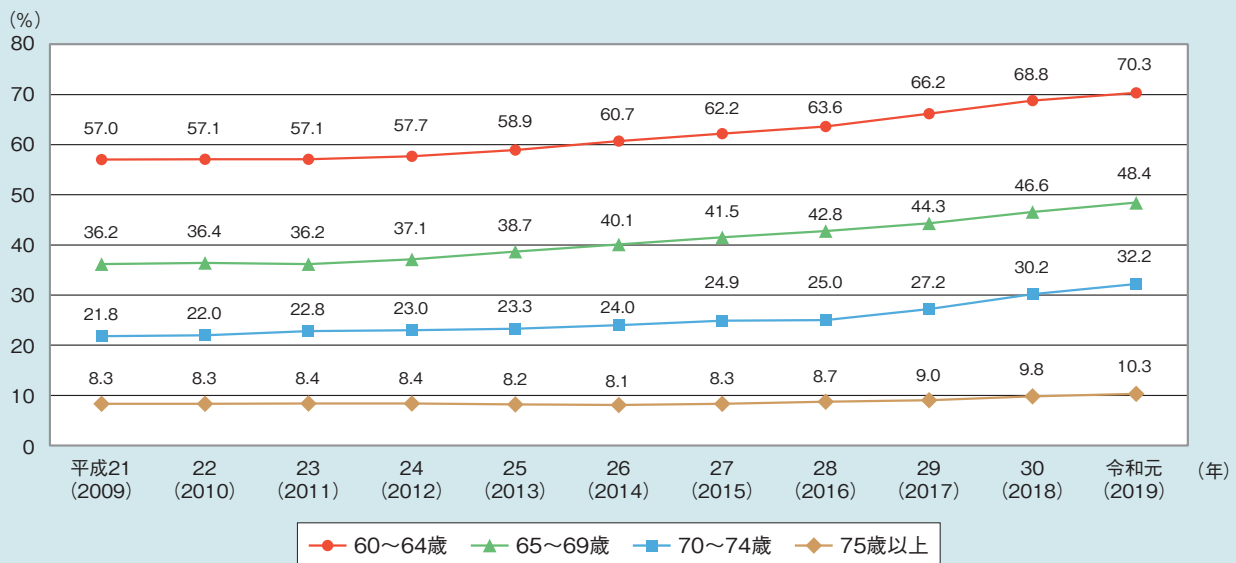


第2節 高齢期の暮らしの動向

○年齢階級別の就業率の推移

- ・年齢階級別に就業率の推移を見てみると、60～64歳、65～69歳、70～74歳では、10年前の平成21（2009）年の就業率と比較して、令和元（2019）年の就業率はそれぞれ13.3ポイント、12.2ポイント、10.4ポイント伸びている。

図1-2-1 年齢階級別就業率の推移



資料：総務省「労働力調査」

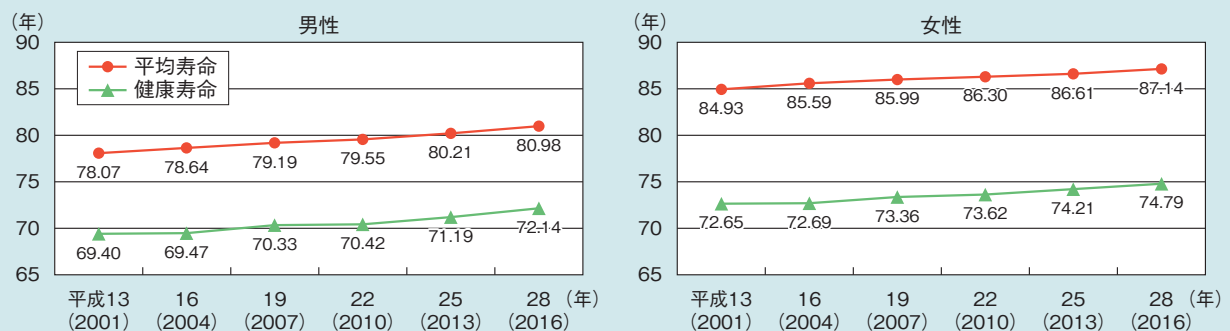
(注1)「年齢階級別就業率」とは、各年齢階級別人口に占める就業者の割合をいう。

(注2)平成23年は岩手県、宮城県及び福島県において調査実施が一時困難となったため、補完的に推計した値を用いている。

○健康寿命は延伸し、平均寿命と比較しても伸びが大きい

- ・日常生活に制限のない期間（健康寿命）は、平成28（2016）年時点で男性が72.14年、女性が74.79年となっており、それぞれ平成22年（2010）年と比べて伸びている（平成22年→平成28年：男性1.72年、女性1.17年）。さらに、同期間における健康寿命の伸びは、平均寿命の伸び（平成22年→平成28年：男性1.43年、女性0.84年）を上回っている。

図1-2-2 健康寿命と平均寿命の推移



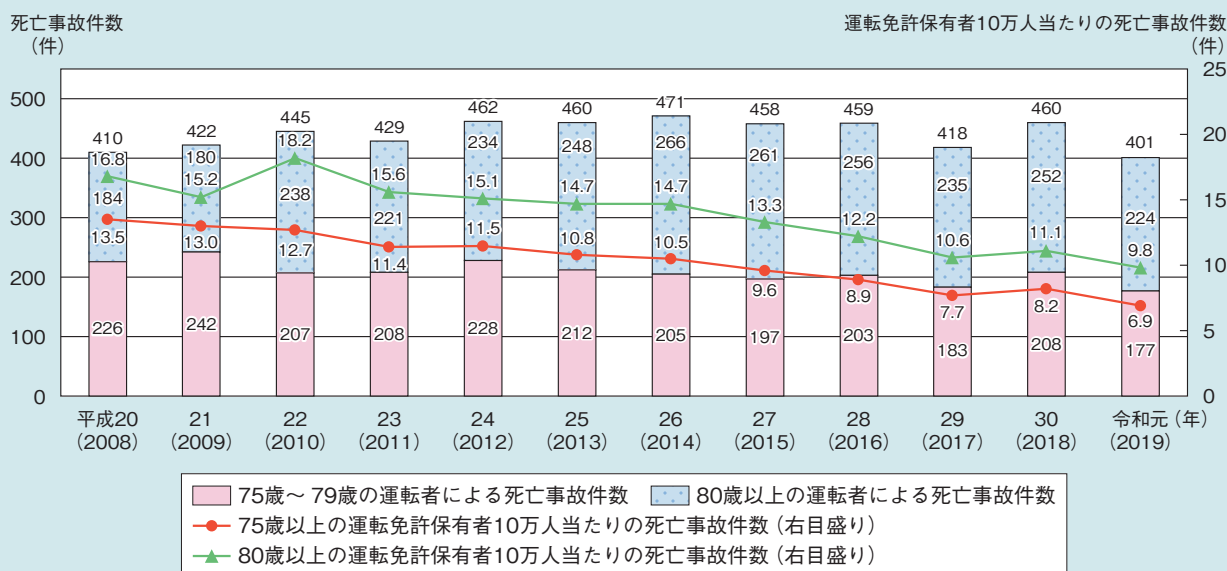
資料：平均寿命：平成13・16・19・25・28年は、厚生労働省「簡易生命表」、平成22年は「完全生命表」

健康寿命：平成13・16・19・22年は、厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」、平成25・28年は「第11回健康日本21（第二次）推進専門委員会資料」

○75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数は減少傾向

・75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数は減少傾向にある。令和元（2019）年における運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数は、75歳以上で6.9件、80歳以上で9.8件と、いずれも前年より減少している。

図1-2-3 75歳以上の運転者による死亡事故件数及び75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数



75歳以上の運転免許保有者数 (万人)

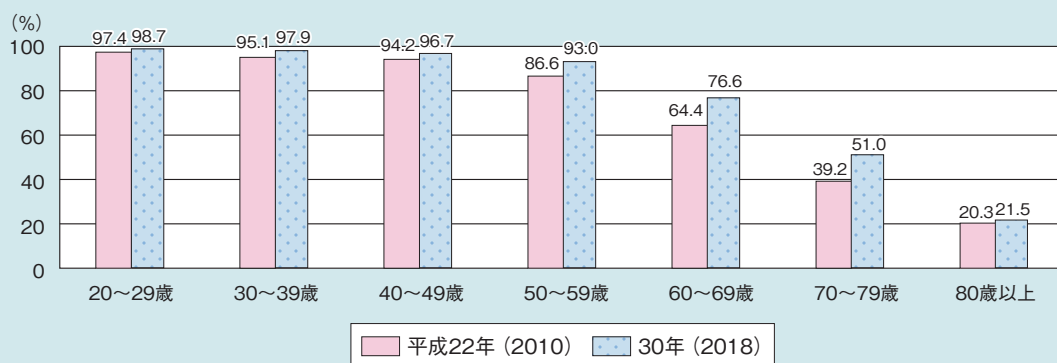
20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
304	324	351	375	403	425	447	478	513	540	564	583
うち、80歳以上											
109	119	131	141	155	169	180	196	209	221	227	229

資料：警察庁統計による

○インターネットを活用する人が増加傾向

・過去1年間にインターネットを利用したことがあるかについて、利用者の年齢階級別に増加率を8年前と比較すると、60～69歳が12.2ポイント増と最も大きく、次いで70～79歳が11.8ポイント増となっており、インターネットを利用する60代、70代の者が増加傾向にある。

図1-2-4 利用者の年齢階級別インターネット利用率



資料：総務省「通信利用動向調査」
(注) 無回答を除く